

2009佐野 第58回利根川水系 連合水防演習が行われました



演習に参加された方々

5月16日、船津川町の渡良瀬川河川敷において、国土交通省、関東1都6県および佐野市主催で大規模な連合水防演習が実施されました。

今回の水防演習には、水問題に関心の深い皇太子殿下がご臨席され、佐野市水防団による水防工法や佐野市女性防火クラブ・佐野市少年少女消防クラブによる簡易水防工法、地元町会などによる避難訓練などを熱心に視察されました。

また、会場にはたくさんの市民の方が集まり、各演習を真剣なまなざしで見守っていました。人命や財産を危険にさらす水害は、いつどこに現れるかわかりません。安全で安心な地域づくりのため、これからもご協力をよくお願いします。



確かな水防技術を披露する水防団

環境省「水・土壌環境保全活動 功労者表彰」受賞



受賞した堀米(菊川)町会の皆さん

6月12日、堀米(菊川)町会が、環境省の平成21年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」を受賞しました。

これは、平成4年度から長年にわたって河川清掃活動を実施し、菊沢川の環境保全に貢献してきたこと。さらに、菊沢川には栃木県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ種に指定されている「コウホネ」が絶滅せずに植生しているなど、町会による保全活動が地域の水環境の保全に大きく貢献していることが評価されたものです。表彰を受けた堀米(菊川)町会の方々は、「今後も町会全体で、河川愛護活動を継続し、愛するふるさとの環境を守っていききたい」と話していました。これからも、頑張ってください。おめでとうございました。



菊沢川清掃活動の様子

新たに時を刻む 文化会館時計



佐野ロータリークラブから、文化会館正面ロータリーに、最新の太陽電池時計が寄贈されました。

市長からの メッセージ



市長・市議選後、初めての6月議会が開催され、今後の市政運営の基本的な考えを述べさせていただきました。

私の2期目の重点テーマは4つあります

- ★安心・安全に暮らせる佐野づくり
- ★子どものみらいが輝く佐野づくり
- ★県南の中核都市にふさわしい活力ある佐野づくり
- ★自然と環境にやさしい佐野づくり

市民の皆さんと力を合わせて推進したいと考えています。

市民アンケートでは、80%の方が佐野は住みやすいと感じています。もっと多くの市民の皆さんが満足できる街づくりに、そして市外の皆さんからも「訪れてみたい」「住んでみたい」と思われるような魅力ある佐野づくりに精一杯取り組んでいきたいと思っております。

新型インフルエンザが、身近なところで発生しています。発熱、咳の症状があったらまず、発熱電話相談センターに電話して指示に従ってください。手洗い、うがい、マスク着用を心がけてください。

今月、佐野ふるさと特使の小堀三千院門主が来佐されます。毎年のように社会福祉事業に寄付をいただき、今回で18回目になります。また、市民との交流や佐野市のPRなど、多大なご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

7日には、北関東自動車道の舗装工事の火入れ式が行われます。来年の一部開通、さらに再来年の全線開通まで、急ピッチで工事が進んでいます。将来の佐野市が大きく飛躍するための高速交通の完成が、すぐそこまで来ています。

まだまだ、蒸し暑い日が続きます。健康に十分注意して梅雨を乗り切ってください。

岡部正英



ハマ(輪)は、破魔矢の「破魔」から出た方言

リヤカーや自転車など円い形をした車輪をハマとっています。「自転車のハマがよく回らないんだよ」「トラックのハマが外れて大事故になったことがあったね」などといいます。

子どもの頃は、タイヤを取り外した自転車のハマを細い棒で押すとくるくる回るので、小石だらけのオーカン(道路)を行き来して走り回ったものです。その遊びを「ハマ回し」とか「ハマ遊び」といっていました。車がほとんど通らない昔のオーカンで、ハマ回しをして遊ぶことは男の子の楽しみのひとつでした。

ハマは破魔矢が意味変化して生まれた方言です。昔、悪魔を取り払うために、破魔という藁で作った円座の的に、小弓で矢を放ちました。関東地方(田舎)では、榎の木の輪切りにしたものをハマとってそれを転がし、転がるハマを木の枝や竹の竿で押し伏せました。こうすることが悪魔を払うことだったので。これは正月に行なう古くからの行事でしたが、のちに子どもの遊び(競技)となってしまいました。この遊びは形態こそ違うものの、日本各地で行なわれていました。

江戸時代には円座を、「ハマ」といっていましたが、輪(車輪)のことをハマということはありませんでした。正月に転がす木の輪切り(円座のようなもの)をハマということから、佐野では同じように転がる車輪をハマというようになりました。ハマという方言から、昔の生活上のさまざまな風習がわかってきますね。(市民記者 森下 喜一)

「We Are シンセキ！」



村人総出で稲刈り(昨年)

教育・環境・エイズなど世の中が抱える諸問題から個人的な悩みまで、誰でも語り合える場として農業集団「シンセキ村」が昨年3月誕生しました。

シンセキ村では、地元農家から4反の土地と知恵を借り、畑を耕し種をまき、米・ジャガイモ・そば・竹墨などを収穫生産し、みんなで食卓を囲む。泥から学び、笑顔の絶えない村づくりを実践しています。5月31日、東京の「H1Vレッドリボンライブ」で、安全なシンセキ村ブランド野菜を料理し、来場者に振舞いました。

村長は、ラジオ「子ども電話相談室」のDJ山本シュウさん。村民約50人は都庁職員や芸能人と

いった都会の人と、そしてもちろん地元の人たち。

“We Are シンセキ!”を合言葉に、閑馬町のシンセキ村を訪ねてみませんか?

(市民記者 永倉 文子)



“We Are シンセキ!”

みんなで楽しくウォークラリー



コース図片手に、さあ出発! 6月7日、健康づくりや仲間づくりを目的に、第5回佐野ウォークラリー大会が開催されました。スタート会場となった運動公園多目的広場には、90組、約400人の参加者が集まりました。各グループとも、それぞれ体力に合わせて「ゆったり歩こう!松風コース(2km)」「ふるさとさんぽコース(3km)」「ルックルック・ゆうゆうコース(4km)」の3コースに分かれ、それぞれのコース地図を片手に出発。途中のチェックポイントで、周囲を観察してクイズに答えたり、工夫を凝らしたゲームにチャレンジしていました。

前日までの雨模様と打って変わり、素晴らしい青空のもと、家族や仲間同士で、皆さんウォークラリーを楽しんでいました。



チェックポイントで、お父さん頑張ってます!